

県内感染事例

【注意事項】

- ・新型コロナウイルス感染症は、無症状感染があるなど、目に見えないという特徴があります。
- ・どこで感染したかを一つだけに絞ることは極めて困難です。また、一つに絞ることで、他の感染防止策がおろそかになってしまうという弊害が生じます。
- ・感染拡大は、様々な環境、状況、行為の重なりで生じるため、それぞれの場面に応じて、「接触」と「飛沫」と「空気(換気)」に注意する必要があります。
- ・以下の感染拡大事例を参考に、お一人おひとりで、またご家庭や職場、地域でそれぞれ考え、実践いただき、長野県内の感染リスクを低減させましょう！
- ・ここで紹介する事例は、実際の事例を元に作成してあります。

2021年2月

長野県健康福祉部・新型コロナウイルス感染症長野県対策本部広報チーム





県内における感染事例 1 / 4 【職場】

熱心さゆえに長時間、密接して、大声になってしまう場合があります。
その一方で、緊張から解放された時に感染防止策を忘れてしまうケースもあります。

商談

社内の数人で感染拡大地域に出張
長時間に渡る商談の後、会食した。
出張した人の内、複数人が発症。
その後、他の同僚、家族に感染。



マスクをしていたが、換気がされていなかった。途中で茶菓子を飲食しながら。
会食では、マスクをはずす機会が多く、
熱心に話した。

体調不良・休憩時

数日前から体調が悪いのに出勤
した人がいた。複数の同僚に感染。
その後家族にも感染。



執務中はマスクをしていても、社員が
同僚と共に昼食をとる際や休憩時の
喫煙などでは、マスクをはずして、
会話する機会が多い。



県内における感染事例 2 / 4 【施設内】

限られた空間内で密接な日常生活が行われているので、感染防止対策がなされていても、一旦、感染源がすり抜けて侵入すると、感染が広がる可能性があります。

介護施設

高齢者の介護施設で、職員と入所者の集団感染が発生。



家族ではない人々が限られた空間の中で日常生活(食事、レク、おやつ、入浴等)。

職員による身体介護が頻繁にある。
皆が同時にマスクをはずす機会が多い。

口すすぎのコップや食器などを共用。
手すり等、複数の人が触れる箇所が多い。

医療機関の病棟

医療機関の病棟で、入院患者と医療従事者の集団感染が発生。
医療従事者の家族にも感染。



複数人の大部屋で、一つの洗面所を共用。
食事時にカーテンをしていなかった。
マスクの着用や手指衛生の徹底が難しい患者がいる。



県内における感染事例 3 / 4 【会食】

楽しいがゆえに、大人数であるがゆえに、マスクをせずに密着し、大声になってしまいます。
夜の飲食店街では、利用客や従業員の往来で感染が広がりやすい環境が形成されることがあります。

大人数での会食

参加者のうち、半数を超える人が感染。遠方からの親戚や県内の親族が複数感染。



普段会うことのない遠方の親戚のほか、近隣の知人・友人が参加し、大いに会話が盛り上がった。

マスクを外した会食が長時間続いた。箸、皿、グラスを共用。換気もおろそか。

夜のコミュニティ・はしご酒

飲食店の密集地で複数の人が感染。利用者だけでなく、飲食店従事者、利用者と従業員との家族にも感染。



常連客が連日、同じ複数店を訪問。

従業員は同地域の複数店に掛け持ちで勤務。勤務後は自分もお客として往来。複数店が事実上のコミュニティを形成。



県内における感染事例 4 / 4 【県外からの来訪】

他県(感染拡大地域を含む)など様々な地域から、就労のために訪れ、寮で共同生活。
海外を含む様々な地域から訪れた人々の中や周辺で、感染が広がったケースもあります。

職場の寮

社員が共同生活を行う会社の寮で集団感染が発生。寮生のほか、同社の職場内で他の従業員が感染。



食事やトイレ、入浴等が常に一緒。
職場も生活も同じ空間・モノ・時間を共有しており感染が広がりやすい環境。

帰省

感染拡大地域で暮らす家族が、数日前に微熱があったものの帰省。帰省後に本人の感染が判明すると共に、同居家族や地元友人も感染。



帰省前に体調や行動歴を注意していなかった。
室内でマスクをしていなかった。
家族や友人と会食やドライブを共にした。